

# 産まれ育つ場所の再構築

～胎内回帰型 神母ノ木保育園・助産院の計画～

社会システム工学科 1110347 畠中清加

「生まれる・育つ・老いる・死ぬ」。世界の誕生から現在まで、生命・宇宙全てにこのサイクルは不変のものである。以来、この世に生まれたもの全てが「自然」に死に向かって生きてきた。しかし、現代の社会ではそのサイクルが狂ってきている。こどもを虐待し殺す親、親を殺すこども、生きる事が嫌になり自ら死を選ぶ若者たち。人生サイクルの構図が大きく崩れ初め、殺伐とした事件や社会問題が錯乱する現代社会において、子供を取り巻く環境をもう一度見つめ直し、「誕生から幼少期にかけての人格の形成期」に、子供が豊かに成長する為の新たな場を計画する。

## 現在の子育て環境と問題点

核家族化 ➡ 母親の孤立 ➡ 虐待・育児放棄 ➡ 虐待の連鎖  
事件や事故 ➡ 過剰な安全対策 ➡ 遊び場の減少 ➡ 好奇心の欠如  
お産の場の変化 ➡ 孤独な出産 ➡ 母が不安を抱く ➡ 胎児への悪影響

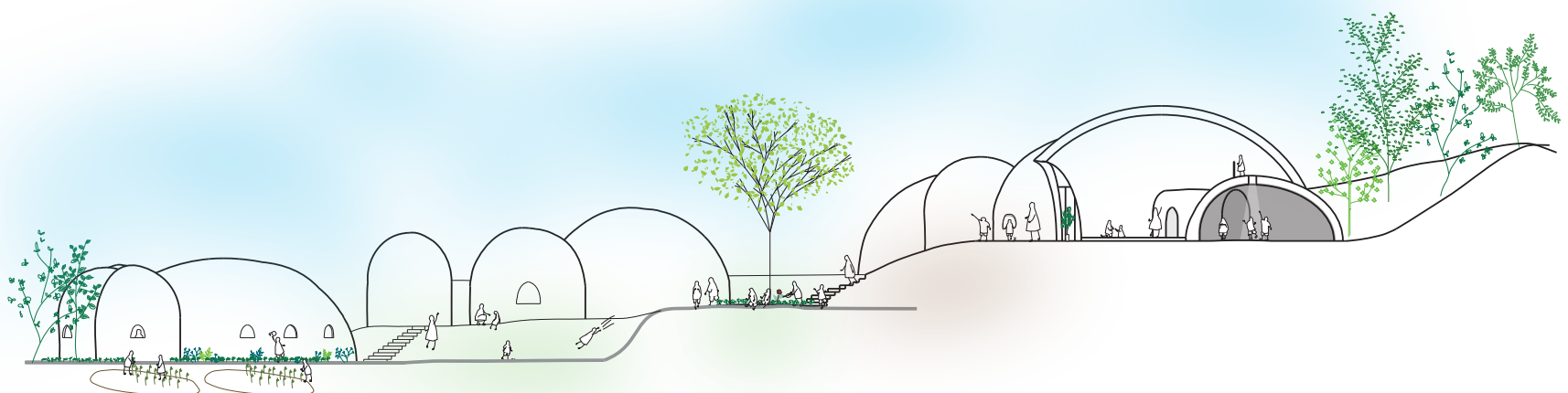
豊かな幼少期を過ごせるよう改善するべきではないのか？



母親が安心して出産・子育てができ子供が豊かに育つ場を提案する

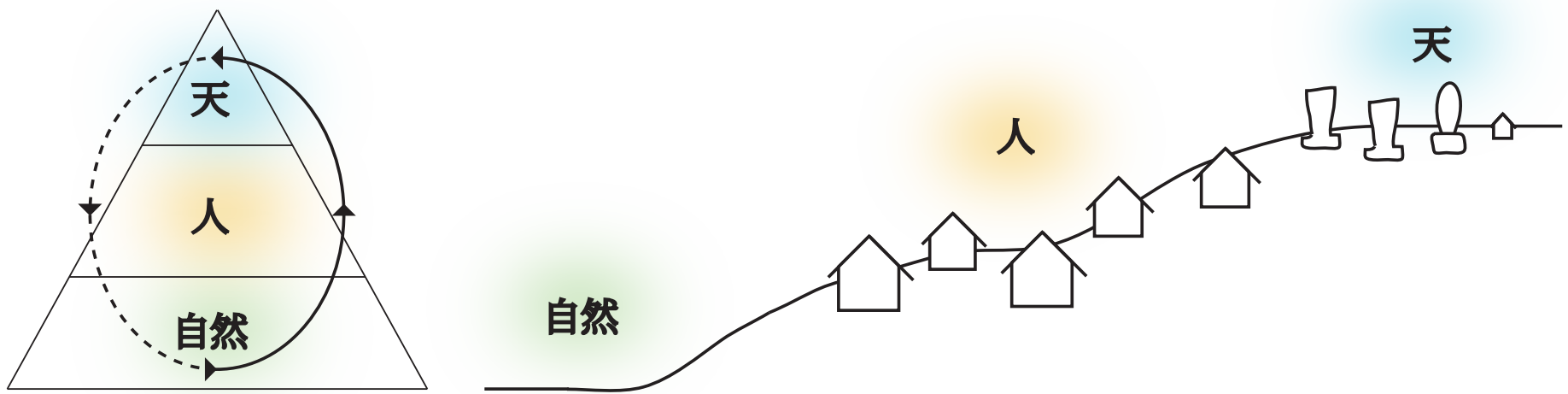


やすらぎの胎内回帰空間 / 好奇心を刺激する遊び場 / 母親を支援する場





# 神母ノ木のライフサイクル



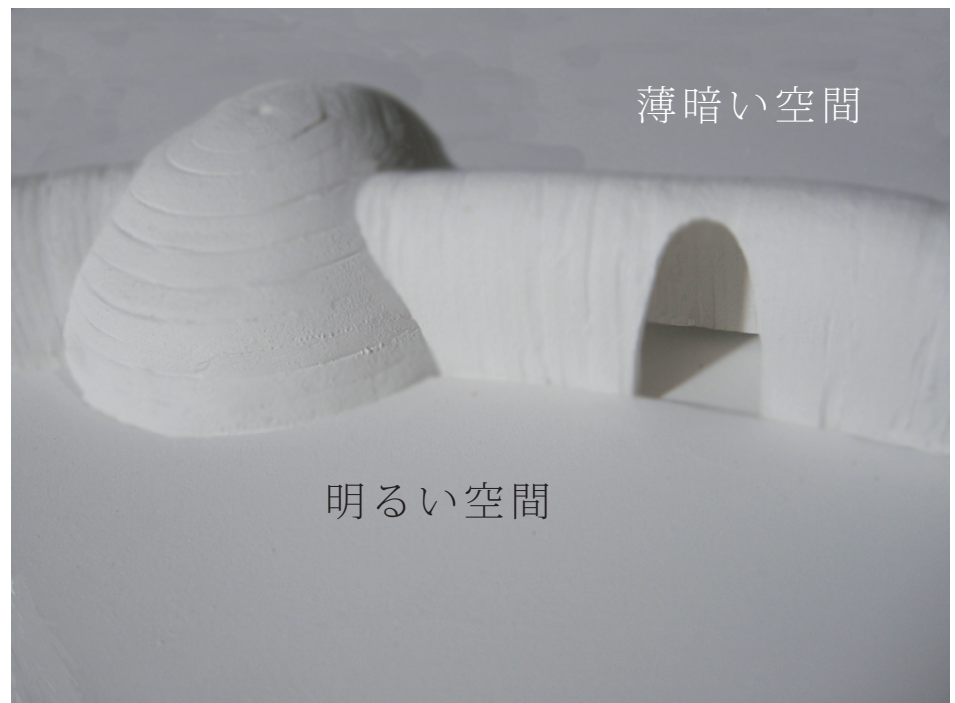
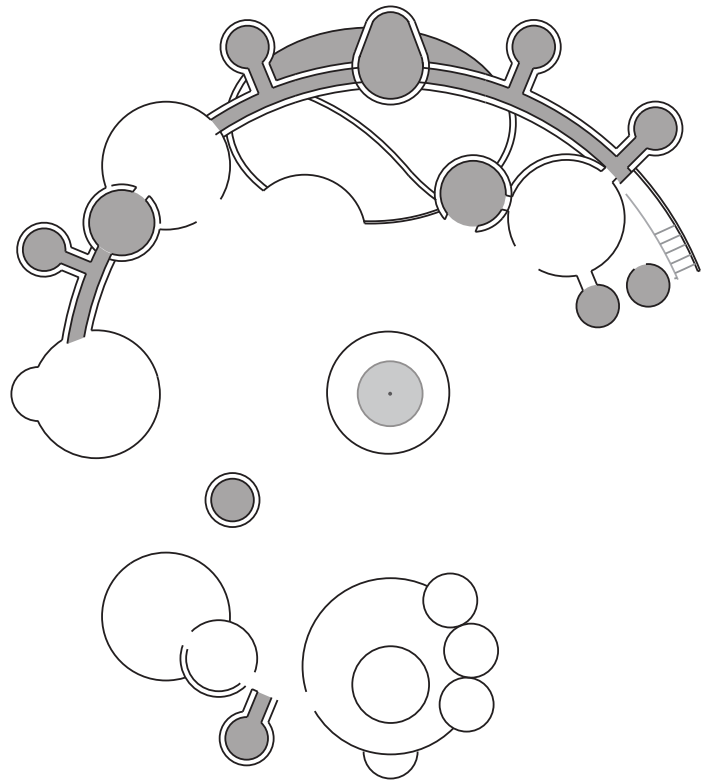
丘陵地形の 高知県香美市 土佐山田町 神母ノ木地区。この土地の人々は傾斜がゆるやかで一見住みやすそうな 丘の上部ではなくあえて傾斜の急な場所に住み、天に近い場所にはお墓や祠を奉っている。この土地の先祖には元来「丘の上は天界に通じる神聖な場所」という意識があったのではないかと推測する。だからこそ、自分達の生活の拠点を、住みやすい丘の上部を避けた傾斜の急な場所に設けたのではないか。つまりこの土地には「丘の中伏で人が育ち、死ぬと天界（丘の上部へとめぐる）」サイクルが存在するの。そういった先祖の「想い」が感られるこの土地に、今回の計画を重ね合わせる。



1: 丘上部の祠 2,3: 天へと昇る坂道 4: 片地保育園 5: 前面の畑 6: 物部川と神母ノ木



## 好奇心を刺激する遊び場



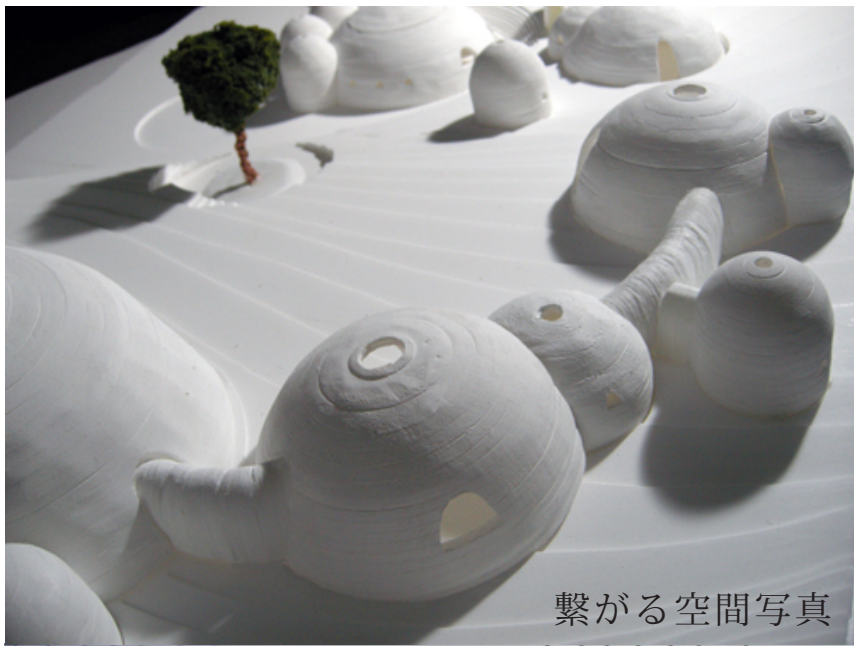
遊戯室内観写真

現代の保育所建築は、「衛生第一」の御旗のもと、均一に明るく平坦な空間で統一されている。今回の計画では明るい空間と共に、子供の好奇心を視覚的に刺激する為、薄暗い空間を作った。園児達の遊び場の中に、明るい空間と薄暗い空間が存在し、それが薄暗い異質な空間である事で、視覚的に空間に変化を与えると共に、園児の想像力やわくわくする好奇心を刺激します。

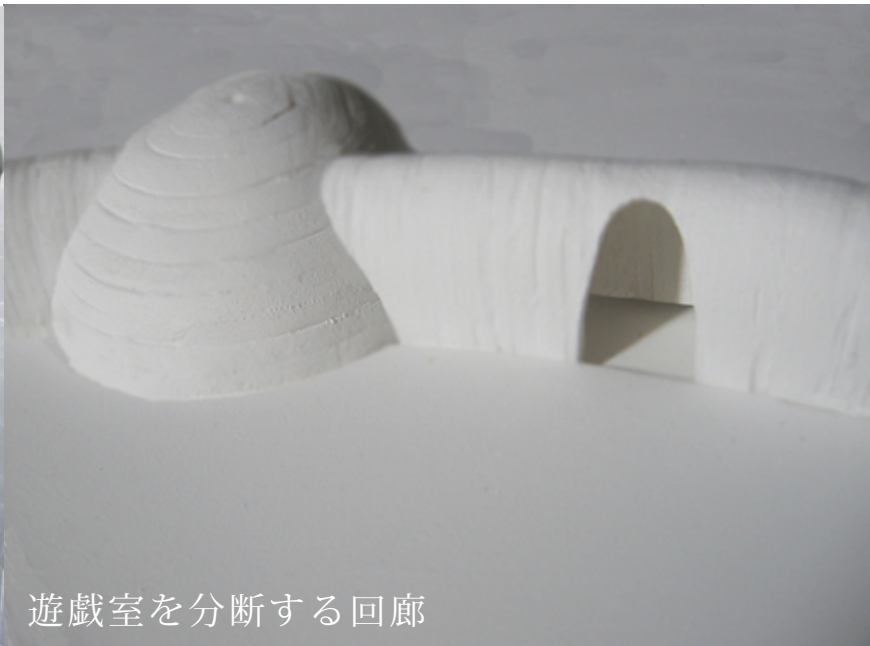
## やすらぎの胎内回帰空間

幼少期の子供の半数に「胎内の記憶」があったと報告されている事（「胎内の記憶・出生の記憶」より引用）や、心理学者デビット・チェンバレン博士の退行催眠実験により母親の子宮内に居た頃の記憶を思い出した被験者達は、ほぼ口を揃えて「静かで暖かく気持ちのよい空間だった」と述べている事から、人間の心理の奥底には「胎内空間のやすらぎ」が存在する事が証明されています。しかし幼少期に自然と胎内の記憶を話す子供が居る一方で、成長と共に殆どの方がその記憶を忘れてしまいます。多くの危険が存在する現代の社会に生きる子供達にこそ、このような「心から安心できるやすらぎの場」で幼少期を過ごして欲しい。しかも胎内の記憶が鮮明で、心身共に大きく成長するこの時期に、胎内空間へ回帰する事で、健やかに豊かに、優しく大きく成長して欲しいと思う。

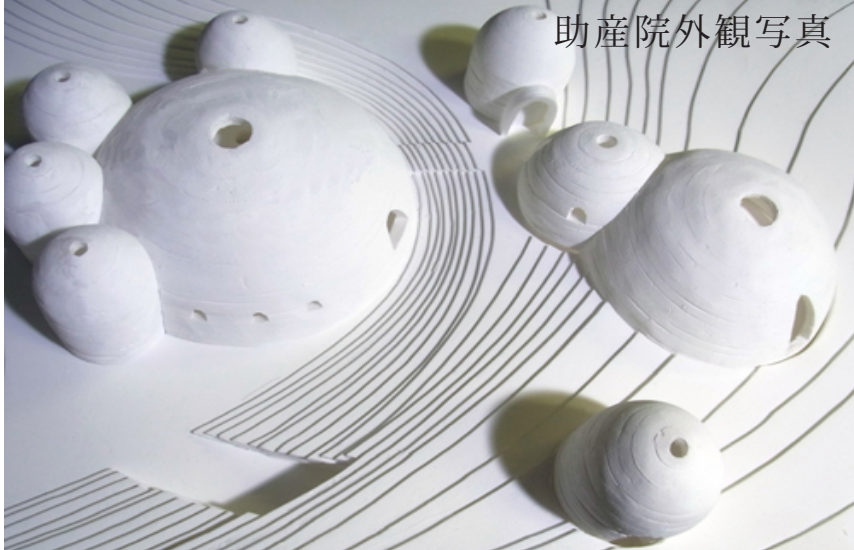




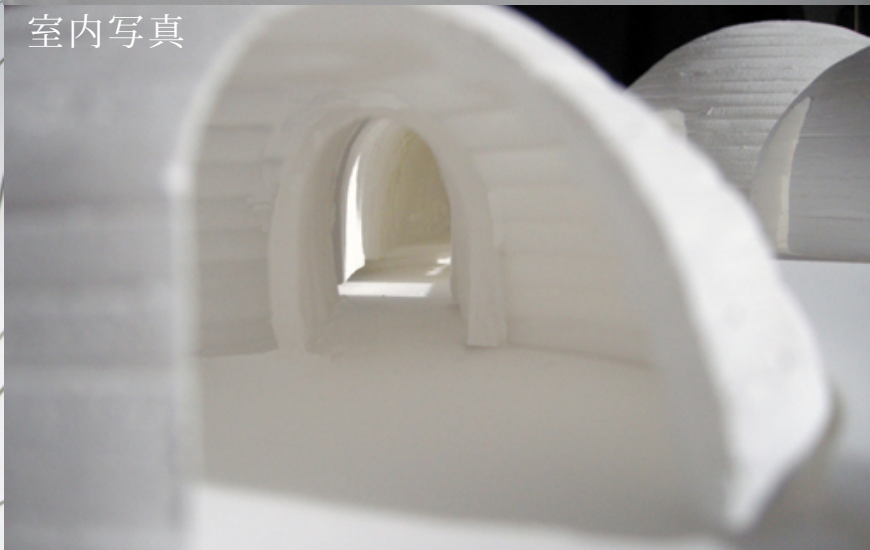
繋がる空間写真



遊戯室を分断する回廊



助産院外観写真



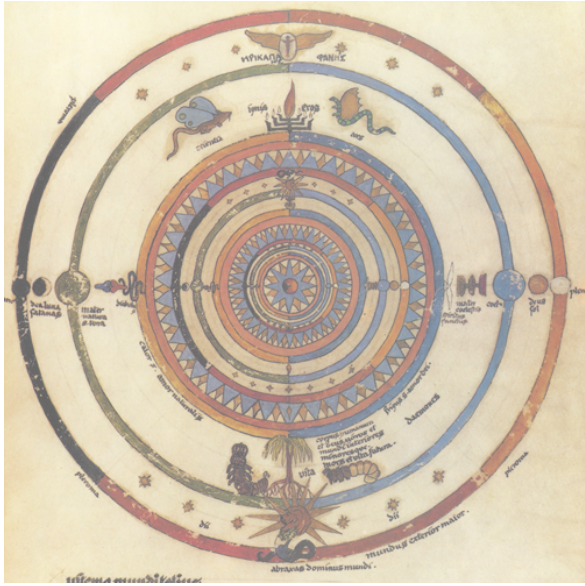
室内写真



全体模型写真

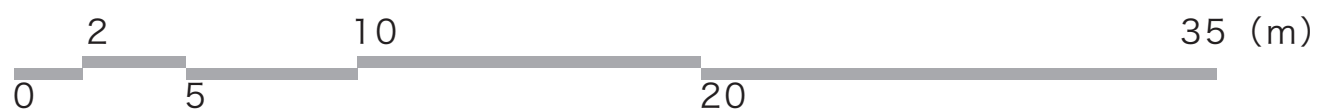


## 全体構成・平面構成



人間の深層心理に眠る曼荼羅の型をモチーフに全体の配置計画を行った。中心には、この地の生命の源のように長年この地に根を張り生きてきた木を置いた。保育所の平面計画は、子供がダイナミックに連続する遊びができるよう、所室同士を回路で繋いだ。そしてその回路が保育所を横断する事で、部屋を分割したり、明暗の差を空間に与えたりしている。

## 平面図





断面図

